

Take a break



集会編NO.2

岩手県職労
青年婦人部機関紙
2020年12月24日
発行者:青婦部書記長
佐々木結麻

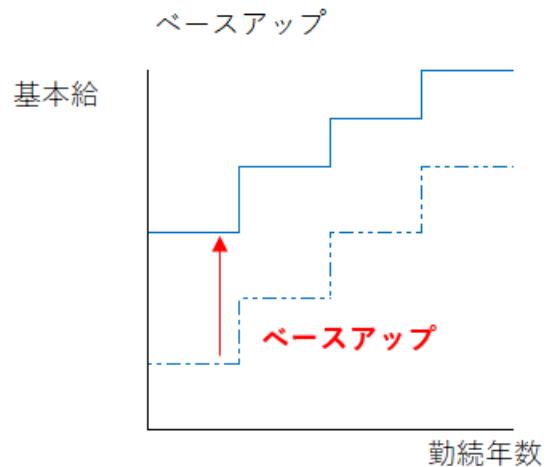
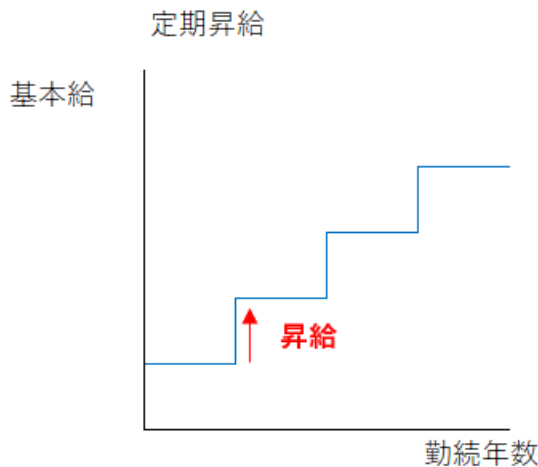
『春闘討論集会(春トロ)』に参加し、賃金や職場について意見交換をしてきました!(12月12日(土)~13日(日))

★そもそも春闘(春季闘争)とは?★

毎年春(2~3月)に民間の労働組合が「経営者側に対し、一斉に賃上げ(ベースアップや定期昇給など)や労働条件の改善を要求する運動のこと。

※定期昇給(定昇)…年数が経つごとに給料が上がっていくこと

ベースアップ(ベア)…定期昇給、賃金水準の底上げ(↓☒参照)



公務員の賃金は民間の賃金と比較されます。民間の賃金が上がれば、公務員の賃金も上がりますが、逆もありえます。だから、私たち県職労も一緒に春闘を行っています!春闘期は賃金や一時金が交渉のメインですが、それ以外の制度や職場実態も伝えていますよ!



賃金が足りているか家計簿で点検してみましょう!今の状況(一人暮らし、実家暮らし、独身など)では足りているが、家族が増える場合はどうでしょうか?

★他県からの報告★

発熱があっただにもかかわらず、出勤を続けていた職員が後に新型コロナに罹患していたことが発覚し、庁内外からバッシングにさらされた。しかし、この職員の係には、当該職員と新規採用職員と再任用職員の3名しか人員配置がされておらず休める状況になかった。

そもそもの人員が足りていない！
→必要な人員は要求し続ける必要！



★コロナ禍と日本経済—雇用問題を中心に★

講師 労働大学 立松 潔さん(山形大学名誉教授)

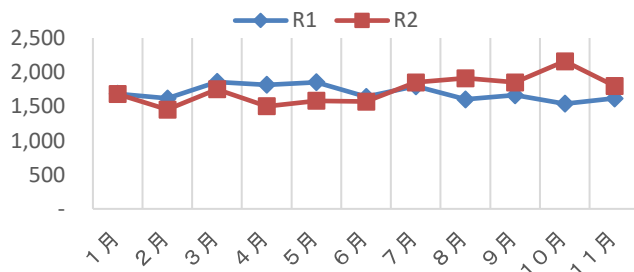
日本と外国の比較

日本	⇔	外国
① 新卒採用を優遇	⇔	職務を限定し必要な人員を募集
② 年功賃金	⇔	同一労働同一賃金
③ 異動がほぼ強制	⇔	本人の希望を無視した強制的な異動は人権無視とされ違法に

非正規労働者数は、9月には昨年同月と比べて123万人も減っている。これは、コロナ関連の解雇や雇止めが考えられ、その6割が女性。

昨年の同月に比べて、自殺者も急増し、9月には187人(男40、女147)、10月には619人(男233、女386)、11月には182人(男83、女99)

自殺者数



コロナによって、『働くこと』が『生きていく(生活する)こと』と切り離せないことがわかりました。

実質賃金指数の推移

実質賃金とは？

賃金が、実際にどれだけの物品の購入に使えるかを示す値
(物価変動が考慮されている)



昔と比べると下がってきていることが分かるね。



自助・公助・共助(自己責任論)？！

→まずは自分でできることを自分でやり、無理な場合は家族や地域で支え合い、それでもダメな場合は国が守る

自己責任論意識調査結果(2007年)

「自分で生きていけないようなとても貧しい人たちの面倒をみるのは、国や政府の責任である。この考えについてどう思うか」という質問への回答結果

日本の「同意」の割合は47国中最も少なく、「不同意」の割合は最も多かった。

回答結果	アメリカ	カナダ	イギリス	フランス	ドイツ	イタリア	中国	インド	日本	韓国
1.全く同意	28%	40%	53%	49%	52%	46%	46%	57%	15%	30%
2.ほぼ同意	42%	41%	38%	34%	40%	40%	44%	35%	44%	57%
3.ほぼ不同意	17%	14%	5%	14%	4%	7%	8%	6%	31%	11%
4.全く不同意	11%	3%	3%	3%	3%	2%	1%	2%	7%	1%
1+2 同意	70%	81%	91%	83%	92%	86%	90%	92%	59%	87%
3+4 不同意	28%	17%	8%	17%	7%	9%	9%	8%	38%	12%

このままでいいのかは考えていかなければいけませんね。

★参加者からの感想★

☆今回2回目の春トクの参加でした。分散会では、みんな独身で、ひとり暮らし、実家暮らしが半分ずつの割合でした。実家暮らしの人は、比較的余裕があり、投資や株などをやっている人がいました。しかし、両者とも共通して言っていたのが、【将来に対する不安】でした。結婚したら、子どもができれば、両親の老後、など漠然的な不安ではありますが、お金や環境の面での不安が多かったです。将来が不安のまま働き続けるのは嫌ですので、賃金アップや結婚休暇などの特別休暇の充実を今後要望していきたいと思いました。(胆江 N.I)

☆日本は新卒採用を前提とした雇用システムにより、働いている正規労働者、非正規労働者どちらにも負担が生じているのではないかと感じた。職務上で必要なコロナ対策のマスク、消毒液等を親睦会費で負担するのはおかしいと感じた。引続き集まる機会があれば、積極的に参加します。(県庁 K.K)

☆初めて集会に参加して、他県の方や市町村の方々と交流できて、同じ公務員なのにこんなにも制度が違うものなのかと驚きました。話の内容についていけないところもあったけれど、グループで討論するときに気遣っていただいて、自分がわかることだけでも伝えると、それに対してのアドバイスとかをいただけたので勉強になりました。わからないことだらけで話すときにとても緊張したけれど、たくさん勉強にもなって楽しかったです。(盛岡 K.W)

☆常に問題意識を持って業務に取り組むことが大切だと思った。どの職場でも、職員の若返りが進んでおり、知識の少ない職員が増えているため、一部の職員に負担がかかっているとの話があった。これから他の職場の実態について共有したい。(一関 H.S)

☆他県では、超勤申請をしないで超勤しているとパソコンの画面上に“警告”が5回くらい出ると聞いた。その警告が出た人が周りに把握できるようにになっているようで、サービス残業をさせない雰囲気があるのを聞いていいなと思った。(県庁 Y.S)

参加者のみなさん御協力ありがとうございました！
今後も多くの方の御協力をよろしくお願いします。

